

【資料3】

# 亀岡市上下水道ビジョン

安心と信頼を未来につなぐ亀岡の上下水道  
～おいしい水と循環のみち～

第3章 事業をめぐる情勢「8 経営の分析」

第6章 収支の見通し

概要版

# 水道事業は、料金の水準、経営の健全性、企業債の依存度、施設の更新状況に課題があります。

## 第3章「8 経営の分析」

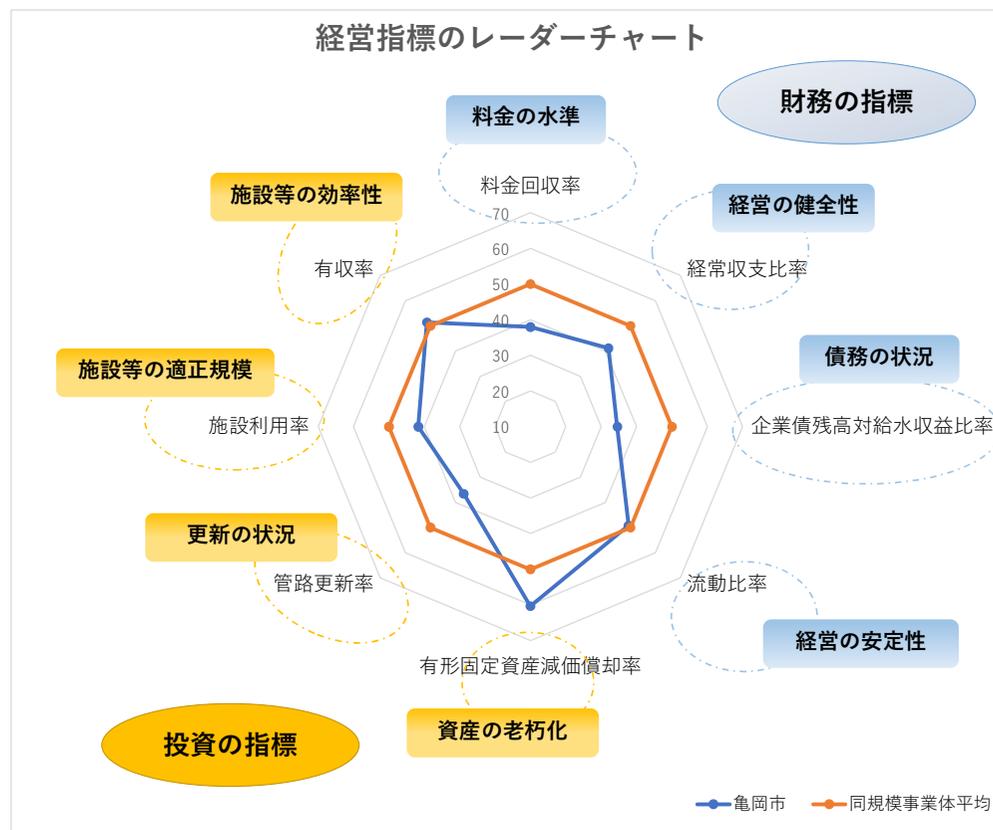
### 8-1 水道事業

#### ➤ 財務の状況

- ・料金水準が低めに設定されており、十分な収益が確保できておらず、企業債（借金）に依存した経営となっている。
- ・業務の効率化により収益性を高めるなど、企業債（借金）に依存した経営を改善する必要がある。

#### ➤ 投資の状況

- ・施設については比較的健全であるが、実態としては管路の老朽化が進行しており、施設の規模・能力が過大な傾向にある。
- ・老朽管の計画的な更新を行うとともに、施設の有効利用や施設規模・能力の適正化を進める必要がある。



グラフは標準偏差方式であり、外側にいくほど良好な数値を示しています。

※亀岡市：2018年度決算、同規模事業体平均：2018年度決算

給水収益は人口減少に伴い大きく減少する一方で、管路や施設等の老朽化に伴い、今後は更新投資の増加が見込まれます。

## 第6章 1.水道事業

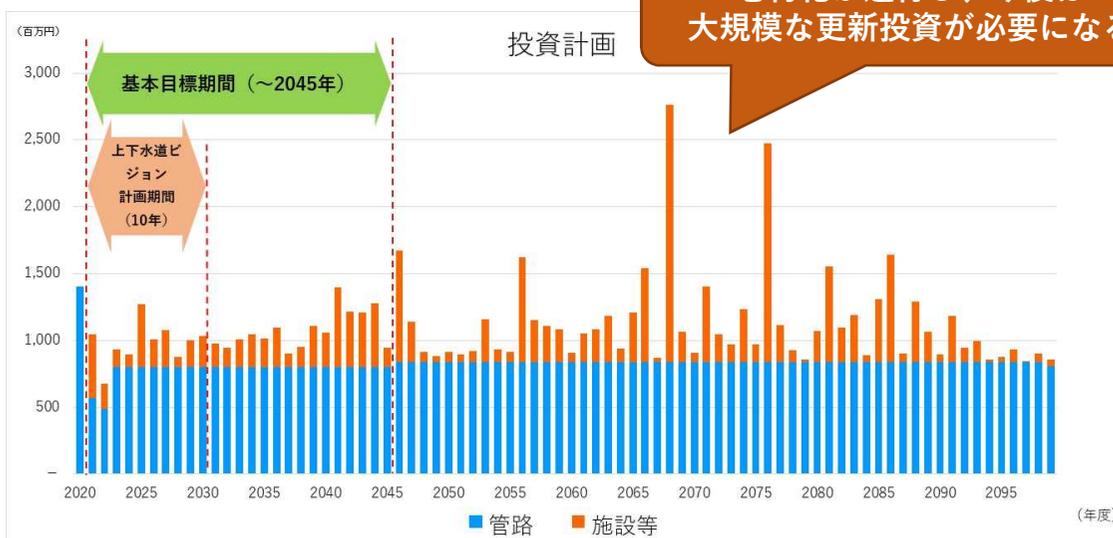
### 1-1 給水収益の見通し

- 人口減少に伴い、給水収益は2045年度には2019年度の7割5分まで落ち込む見込み。



### 1-2 投資額の見通し

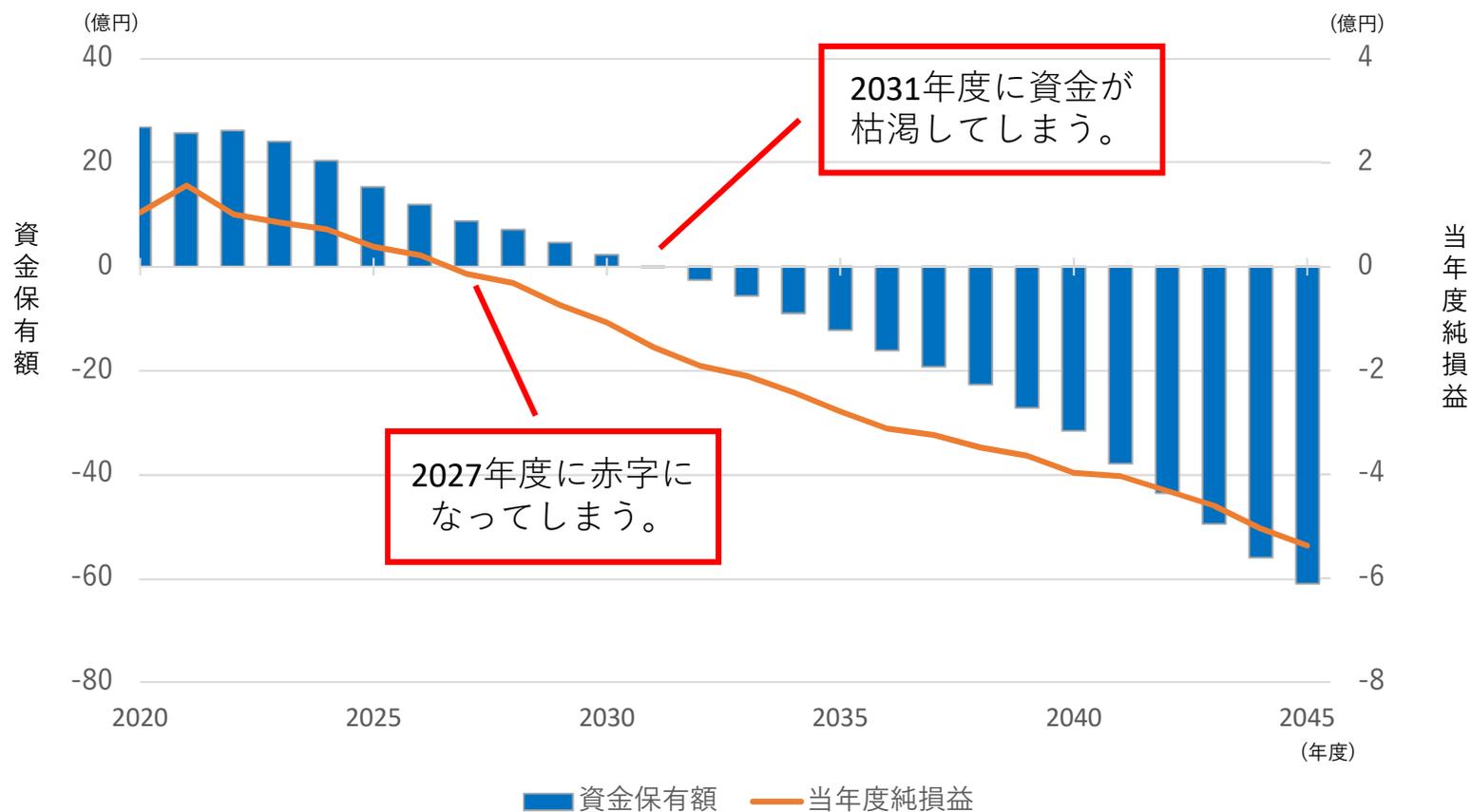
- 管路や施設等の老朽化に伴い、今後の80年間で、毎年度平均11億円程度の投資が必要となる見込み。



給水収益の減少や更新投資の増加により2027年度から収益的収支が赤字になり、2031年度には資金も枯渇してしまいます。

## 1.水道事業

### 1-4 収支の見通し



# 下水道事業は、経営の安定性、資産（特に設備等）の老朽化に課題があります。

## 第3章「8 経営の分析」

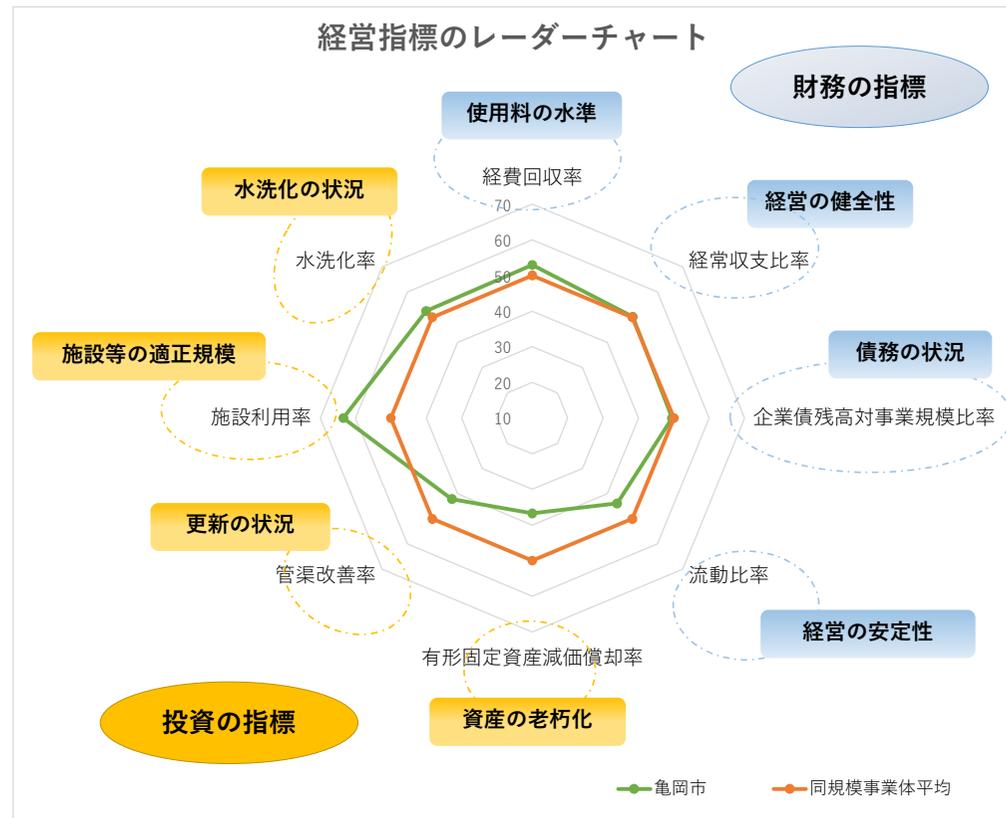
### 8-2 下水道事業

#### ➤ 財務の状況

- ・比較的高めの使用料水準であり、一定の収益が確保できているが、企業債の償還が多額に上ることから資金不足に陥っており、経営の安定性に欠けている。
- ・資産管理の適正化を進め、設備投資を抑制するなど、資金不足の解消に向けた取組が必要である。

#### ➤ 投資の状況

- ・施設については、規模・能力は概ね適正と言えるが、老朽化については、他の事業体と比較すると進行している。
- ・耐用年数を経過した処理設備等を適切に更新しつつ、将来の管渠更新に備えた資金の確保策を検討する必要がある。



グラフは標準偏差方式であり、外側にいくほど良好な数値を示しています。

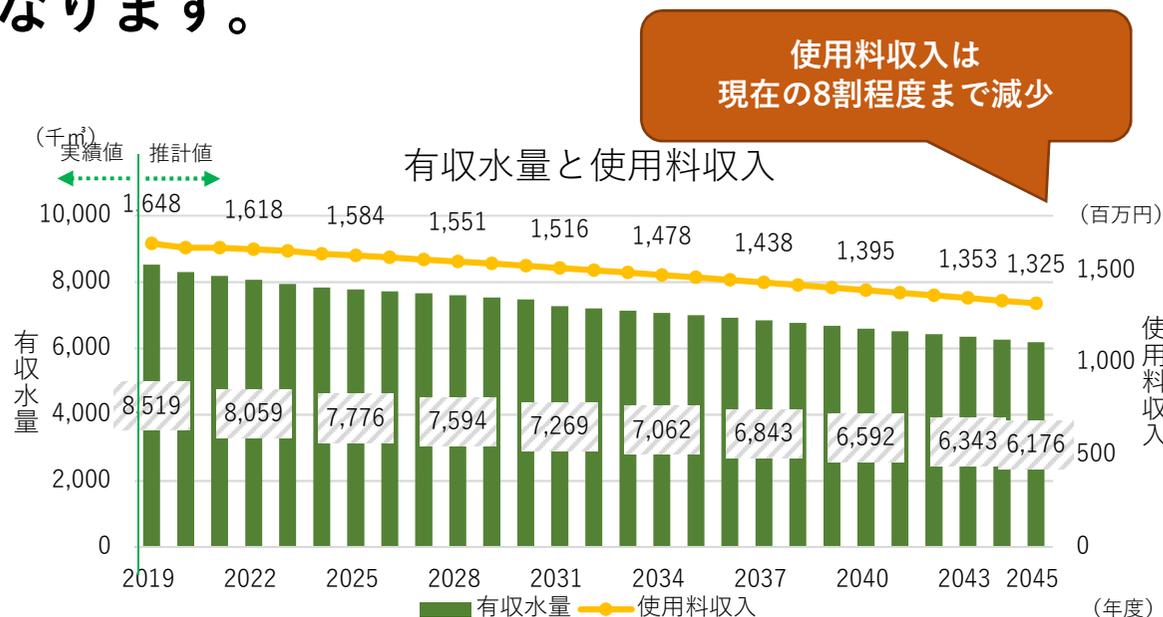
※亀岡市：2018年度決算、同規模事業体平均：2018年度決算

# 使用料収入は人口減少に伴い大きく減少する一方で、設備等の更新投資が必要になります。

## 第6章 2.下水道事業

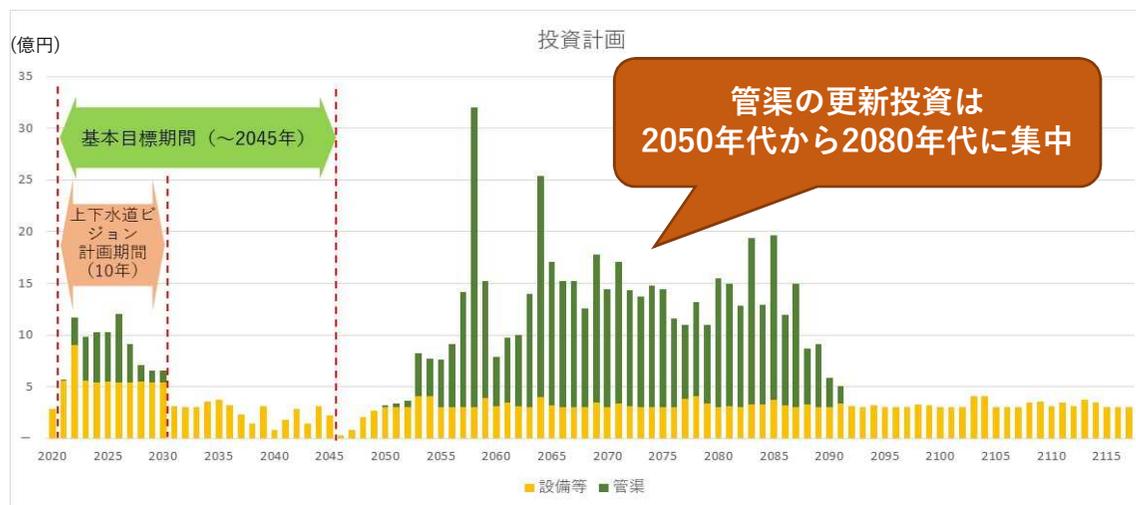
### 2-1 使用料収入の見通し

- 人口減少に伴い、使用料収入は2045年度には2019年度の8割程度まで落ち込む見込み。



### 2-2 投資額の見通し

- 計画期間（2021年度～2030年度）の10年間は、年平均8.9億円の投資が必要となる。
- その後2053年度までは、年平均3億円程度の投資となる見込み。



下水道事業は、次の大きな更新投資の波が2050年代になるため、それまでの間に資金を蓄えることが可能です。

## 2. 下水道事業

### 2-4 収支の見通し

